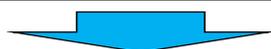


第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	訪問型家庭支援事業			事業番号	09-106
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	教育部学校教育担当	宮林 英樹	教育指導課教育センター	本多 由佳里	

計 画 (Plan)

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち	
		基本政策	3	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり	
		施策展開の方向	1	子どもの生きる力をはぐくむまちをつくる	
		施策	9	きめ細やかな教育の推進	
予算事業名	訪問型家庭支援事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成28年度	～	終了年度	
関連法令等	文部科学省スクールソーシャルワーカー活用事業実施要領				
国・県の計画等				計画期間	
関連個別計画				計画期間	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	児童生徒のいじめ、不登校、暴力行為等の状況や背景には、家庭、友人関係、地域、学校等の児童生徒が置かれている環境の問題が複雑に絡み合っているものと考えられます。児童生徒が置かれている様々な環境に着目して問題解決を図るためのコーディネーター的な存在が、教育現場において求められています。				
目的 (何をどうしたいのか)	児童生徒が安心して学校教育を受けることができるよう、教育の分野に加え社会福祉に関する専門性をもったスクールソーシャルワーカーによる支援を行います。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市内公立小中学校に在籍する児童生徒の保護者及び家庭。				
事業内容 (手段、手法など)	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が安心して学校教育が受けられるよう、家庭と福祉をつなぐスクールソーシャルワーカー(SSW)による支援を行います。 必要に応じて民生委員児童委員などの地域の人材も活用します。 スクールソーシャルワーカーに適切な指導・援助ができるスーパーバイザーを配置します。 				
事業行程	項目	年度			
		28年度	29年度		
	スクールソーシャルワーカーの配置	4日勤務者を1人配置	継続配置		
	スーパーバイザーの配置	1回2時間×4回	継続配置		
目 標	【指標名】	【現状】	年度		
			28年度	29年度	
	スクールソーシャルワーカーの訪問回数	-	220回	220回	



事業実施(Do)へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	学校の要望に基づき、計画的に学校巡回を行い、情報共有を図るなどして、問題の早期発見・早期対応に努めます。 引き続き、教育相談事業や他課との連携を図り、切れ目ない支援体制における役割を果たしていきます。		
実施方法 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> すべて直接実施 <input type="radio"/> 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容
実施結果	項目	年度	
		28年度	29年度
	スクールソーシャルワーカーの配置	4日勤務者を1人配置	4日勤務者を1人配置
	スーパーバイザーの配置	1回2時間×3回	1回3時間×4回
実施した取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市費によるSSWの配置、派遣、巡回訪問 ・市費SSWに対するスーパーバイザーによる指導、支援 		
目標の達成状況	【指標名】	【現状】	年度
			28年度
	スクールソーシャルワーカーの訪問回数	-	223回
			29年度
			342回

年度		28年度 実績				29年度 実績				
コスト	事業費合計 (a)		3,385	千円	3,784	千円				
	内訳	国県支出金 ①	0	千円	0	千円				
		地方債 ②	0	千円	0	千円				
		その他特財 ③	0	千円	0	千円				
		一般財源 (a)-①-②-③	3,385	千円	3,784	千円				
国県支出金の内容										
その他特財の内容	受益者負担	<input type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		前回の改定時期						
	その他									
人件費	正規職員	0.13	人	1,125	千円	0.23	人	2,008	千円	
	その他の職員	0.78	人	1,895	千円	0.77	人	1,863	千円	
	人件費合計 (b)	0.91	人	3,020	千円	1.00	人	3,871	千円	
トータルコスト (a)+(b)		6,405	千円	7,655	千円					
単位当たりコスト	対象数	定義	活動総回数		単位	活動総回数		単位		
		対象数	870	回	955	回				
	総事業費／対象数	7,362	円	8,016	円					

評価 (Check)へ

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	学校が市費SSWによる支援が必要と依頼してきたケースについて、情報把握に努めるとともに学校や他機関それぞれの役割を明確にしたうえで、支援を行ってきました。また、学校の要望に応じて計画的に巡回訪問を実施し、児童生徒を取り巻く環境に関する問題について早期発見に努めました。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input checked="" type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	B	他都市の事業内容等	他市もSSWまたはそれに相当する専門職を雇用しており、本市も同様に福祉の専門家であるSSWを配置し、学校との協働により適切な支援を行うことができています。しかし、学校からのニーズは高く、現状の配置人数では必要なケースに十分に対応することが困難な状況があります。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	市費SSWにおいては、課題解決に向けて学校に情報提供をしたり関係機関と繋いだりする間接支援のほか、必要に応じて家庭に対する直接支援を行っています。児童生徒を取り巻く環境は複雑化しているため、主訴改善までに時間等を要することが多い状況はありますが、そのようなケースにも根気強く関わりを継続しています。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	市費SSWの稼働率は9割を超えており、現状の配置人数で対応できる最大限の活動・支援を行いました。また、スーパーバイザーからケースに対する指導・助言のほか、学校からのニーズをより的確に把握ができるような仕組みについて示唆をもらい、検討しました。


 取組の改善 (Action)へ

取組内容の改善 (Action)	
事業推進上の課題	学校からの依頼が増加していること、課題の早期発見・早期対応に向け、計画的に巡回訪問を開始しましたが、1名のスクールソーシャルワーカーでは対応が難しくなっています。
次年度以降の取組の方向性	児童生徒を取り巻く環境が複雑化しており、福祉的側面からの支援が一層必要となっています。スクールソーシャルワーカーの増員に努めます。
所管部長による総評	学校とスクールソーシャルワーカーとの連携により、必要な支援を行うことができています。主訴改善には、時間がかかることから、継続的な支援が必要です。スクールソーシャルワーカーの増員が必要となっています。